

会員選任制度検討分科会（第2回）議事要旨

1. 日 時：令和7年12月24日（水）16：00～17：30
2. 場 所：オンライン開催
3. 出席者：日比谷 潤子委員長、宇山 智彦委員、山田 八千子委員、狩野 光伸委員、山口 香委員、市川 温子委員

4. 議事次第

- (1) 前回議事要旨（案）について
- (2) 会員選任制度検討分科会の検討事項について

5. 配布資料

- ・資料1 前回議事要旨（案）
- ・資料2 会員選考の流れと会員選任制度検討分科会での検討事項について
- ・資料3 令和11年10月からの会員の選考に向けた検討事項について
- ・参考資料1 関連規定整理表

6. 議事概要

（選定助言委員会について）

- ・すぐに会員の欠員が出じる可能性があるため、速やかに補欠の選任を行うことができるよう、成立時総会において委員を任命することが良いのではないか。

（（1）選考に当たって考慮すべき観点について）

- ・基本的な検討の進め方として、26期の会員選考の基準をベースとして、足りない要素を加えていく形で検討することが良いのではないか。
- ・経験のみを重視するのではなく、能力や関心を重視することも必要である。
- ・学術会議に割けるエフォートも考慮すべきか。少なくとも、総会に出席する程度のエフォートは必要ではないか。
- ・考慮すべき観点として、以下の具体例が挙げられた。
 - ・広い視野で社会の中で科学がどうあるべきかという視点を持っている人
 - ・国際的な意欲・経験のある人
 - ・研究分野の発展のために尽力してきた人
 - ・外部資金の獲得に関する知見のある人

（（2）ダイバーシティについて）

- ・ジェンダーバランスについて、専門分野によって状況が異なるため、柔軟に目標を設定する必要がある。性別によって年齢バランスが異なる場合があり、それによって活動にかかるエフォートに偏りが生じ得るため、バランスに配慮することが重要である。
- ・年齢バランスについて、若い会員が重要な役職を任されることは少なく、重要な意思決定はシニア中心に行われている傾向があるため、若い会員も活躍できるよ

う、役職の中での年齢バランスも考える必要があるのではないか。

- ・活動領域について、学術会議としてどのように活動してほしいか考えた上で活動領域を検討すべきではないか。また、アカデミアに理解のある人が望ましい。
- ・地域バランスについて配慮することは重要であるが、研究組織が少ない地域もあるなど、難しい問題である。また、地区の中での地域の散らばりの確保を考えることも課題である。なお、会員が就任後に地域を移るケースについては、地域を移った場合でも、その地区会議に継続して所属するという形もあるのではないか。
- ・国籍について、日本に根差し、日本のアカデミアで活躍している人で、日本の学術を良くしようという意思のある人は会員になれるようにすべきではないか。

((3) 選定手続について)

- ・透明性の確保については、個人を特定できる情報を公表するのではなく、具体的に何人の候補を挙げて投票で何人を選んだかを明らかにするなど、手続や方針の透明性を確保するということである。現状は、外から見ても内部でも選考の手続が分かりにくいため、プロセスを明確に示すことが必要である。
- ・学術界との関係性をより強めるために、会員の選任についてアクティブに学術界に発信することが重要ではないか。
- ・学協会から広く推薦を受けられるよう工夫することは、アカデミア全体と学術会議の結びつきを強めることに繋がるのではないか。(ただし、学会による推薦方式を現行方式に代えた過去の経緯に留意し、仕組みを工夫することが必要である。)
- ・投票について、個々人に対する投票ではなく、選定の手続も含めた全体に対して投票することが良いのではないか。

以 上